

しおさい通信

No. 27

平成26年9月号

指定就労継続支援B型事業所 しおさい
三崎：銚子市三崎町 3-82 TEL：0479-23-9012
春日：銚子市春日町 2058-1 TEL：0479-25-3475
HP：http://npo-new.org/

しっぽふぁーれ 開催

7月5日（土）、旭中央病院において、第3回地域精神保健医療福祉フォーラム Si Puo Fare!（しっぽふぁーれ）【“やればできる”という意味】が、「イタリア精神保健に学ぶ 海匠もできる 障がいを超えた心豊かな町づくり」というテーマで開催されました。

フォーラムは4つのプログラム構成で行われ、「プログラム1：講演」では、イタリアのトレント市から来日した医師（トレント市精神保健局長）1人と、当事者2人（男女各1人）が、通訳を介しながら「障がいを超えて、立場を超えてみんなで一緒に作る街のイタリアンレシピ」という演題で、UFE（ウーフェ）【“当事者と家族は障害に対する専門家”というイタリア語の頭文字】という制度を中心に、トレント市での取り組みについて話されました。

昼食交流会、イタリア視察の報告会に続いての「プログラム4：シンポジウム」は、「障がいのある人もない人も共に暮らす海匠地域を作り出すには？～それぞれの立場から感じる課題を通して私たちがこれから取り組めることを考える～」をテーマにしてパネルディスカッション形式で行われました。このコーナーには、居住サービスの立場から施設長の山本初江さんが、当事者の立場から通所者の小鷲直人さんが出席しました。（他に、保健サービスの立場、就労支援サービスの立場、家族の立場から出席）それに先立ち、それぞれの立場から取り組んでいることの発表が行われました。以下に、発表した内容を掲載します。

■居住サービスの立場から グループホームNEWハウス管理者 山本初江 ■■■

平成19年からグループホームを一つ一つ作って来て現在7か所ある。男性6名、女性8名の14名が入居している賃貸住宅。

現在取り組んでいることだが、管理者が24時間356日携帯（電話）を常備しており、問題発生時に対応している。

毎月、運営会議、各グループホームのミーティング、世話人のミーティングの3つを実施している。

活動を通じて感じる3つの課題だが、まず1つは、利用者が日中引きこもっていることだ。簡単な言葉だが、グループホームとして普段から支援の必要性を感じている。2つ目は、まだ夜間や休日支援が出来ていないこと。3つ目は、世話人のスキルアップだ。

その課題を作り出している背景を考えて見た時に、まず、引きこもりについては高齢化によることが大きい。男性6名の平均年齢は50歳に近い。女性は8名だが、60歳に近いという状態だ。また、夜間・休日支援については、支援区分の制限があり、日中支援の限界を感じている。そして、世話人のスキルアップだが、世話人が多様化している上に、研修する機会が不足していると感じている。

では何から取り組めるかと考えた時に、法人内5事業の活用と世話人の連携が大事だと思っている。また、問題事例の検討会の実施ということで、ケース会議という形で病院や行政を含めたいろいろな職種の方の協力が必要だと感じている。そして、世話人を対象とした専門家による講習会の実施だが、グループホーム支援ワーカーとの連携の強化が必要だと感じている。

協力してもらいたいこととして、地域性もあると思うが、まだまだ障害者が通所出来る施設が少ないので、その確保と充実。また、研修会への講師派遣。内部だけでなく外部からも招へいすることの必要性を感じる。最後に、地域の理解を得るための環境づくりだ。中々グループホームとして使用する家が借りられない。地域性もあるだろうが、「精神」と言っただけで差別と偏見がある。それを皆さんに理解して欲しい。自立支援協議会の居住分科会の中でも理解してもらうための活動が始まっていて、民生委員の集まりなどで話をさせてもらっている。障害者が地域の中で自立した生活が出来るような形のものを作って行きたいと思っている。



■当事者の立場から ピアサポートひかり 役員 小鷲直人■■■

ピアサポートの現在だが、患者同士の情報交換をしたり、服薬やお互いの症状について話し合ったりしている。また、集まって会話することによってストレスの発散に役立つことがある。そして患者同士のコミュニケーションが高まると考えている。

ピア活動の問題点だが、中々人が集まらないということがあげられる。ピアサポートひかりに関しては、専門にケアしてくれるスタッフや医師、臨床心理士やPSWがいないので、今まで困っていたが、7月から（かんらんに）担当の方がお見えになったので、今後の活動において、力になって頂けると思う。また、活動の内容がマンネリ化してしまった面がある。

問題点の背景だが、メンバーが就労してしまったり、他の施設に通所して集まれなくなったことがあげられる。

最後にピア活動のこれからについてだが、基本的にこの病気に対する悩みや辛さを話し合い、助け合う活動をしたいと考えている。例えば、朝起きられない人にモーニングコールをしてあげたり、生活改善や薬物療法のアドバイスをするということで、患者の立場にある人（就労者、作業所への通所者）など、いろいろな意見がある人たちが、気軽に話し合える場所、気軽に集まれる活動がピアグループ活動の目的と考えている。個人的には、最近までピアサポート講習などを受けたりして、将来ピアサポーターとして活躍出来ればいいなと思っている。



▲シンポジウム



▲イタリアから来日したお三方



▲壇上の山本さん(左から2番目)と小鷲さん(右端)



イタリア人来所



しっぽふあーれの5日後の7月10日（木）、来日中の3人（医師のレンツォ・デ・ステファノさん、当事者のマウリツィオ・カピタニオさん〈男性〉、フランカ・ベルテッラさん〈女性〉）と日本の関係者5人が、しおさいへ見学の為、来所されました。

しおさいの概要や銚子のことを説明しました。また、焼きたてのパンを食べて頂きましたが、皆さんから「おいしい」といううれしいお言葉を頂戴しました。最後に、厨房で行っているパン製造の様子を見学されました。



▲しおさいについて説明する田村さん

～編集後記～

かんらんの周辺が少しずつ動き出しています。旧シティオの跡地は、建物の取り壊しが終了し、大通りからかんらんが見えるくらいにスッキリしました。ここにはパチンコ店が出来そうです。また、松屋百貨店（東京都渋谷区）が、旧十字屋銚子店の跡地に建物を建設しながら、テナントが集まらず開業を断念してしまった「てうし横丁」も、銚子セレクト市場を運営するヒューマンライブ株式会社が、今年12月の開店を目指して、テナント入居者向けの説明会を開催すると地元紙が報じていました。パチンコ店が出来ることについては賛否あるようですが、人口が減って寂しくなった銚子の中心市街地に、人が集まる施設が出来れば、少しは人通りが戻って来て、かんらんのパン売り上げがアップするかなと、ちょっとだけ期待しています。